

「ペトロの解放を喜ぶ」

2016年05月28日

使徒言行録 12 章 13 節～19 節。門の戸をたたくと、ロデという女中が取り次ぎに出て来た。ペトロの声だと分かれると、喜びのあまり門を開けもしないで家に駆け込み、ペトロが門の前に立っていると告げた。人々は、「あなたは気が変になっているのだ」と言ったが、ロデは、本当だと言い張った。彼らは、「それはペトロを守る天使だろう」と言い出した。しかし、ペトロは戸をたたき続けた。彼らが開けてみると、そこにペトロがいたので非常に驚いた。ペトロは手で制して彼らを静かにさせ、主が牢から連れ出してくださった次第を説明し、「このことをヤコブと兄弟たちに伝えなさい」と言った。そして、そこを出てほかの所へ行った。

夜が明けると、兵士たちの間で、ペトロはいったいどうなったのだろうと、大騒ぎになった。ヘロデはペトロを捜しても見つからないので、番兵たちを取り調べたうえで死刑にするように命じ、ユダヤからカイサリアに下って、そこに滞在していた。

ペトロは、ヘロデ王が殺害しようとした前夜、天使の導きによって牢から出ることができた。すぐに、信者たちが祈っているエルサレム教会であったと思われる家に行った。彼が門をたたくと、ロデという女中が取り次ぎに出て来た。彼女はペトロの声を聞いて、喜びのあまり門を開けずに、家に駆け込み、ペトロが来ていると告げた。人々は、厳重な監視の下にあるペトロが来ているはずはないと、「あなたは気が変になっているのだ」と言った。彼女はペトロが本当に来ていると言い張ったが、皆は「それはペトロを守る天使だろう」と信用しなかった。ペトロが戸をたたき続けるので、門を開けてみると、そこにペトロが立っていた。皆は非常に驚き、大喜びをした。ペトロは歓喜の声を上げる人々を制して静かにさせ、主が牢から連れ出してくださった次第を説明した。彼らは「神は生きておられる。祈りが聴かれた」と神を賛美したことだろう。ペトロは自分が牢から解放されたことを主イエスの弟ヤコブや他の使徒たち、兄弟たちに伝えなさいと言った。それから、この家から出て、身を隠すために他の所に行った。

夜が明けると、兵士たちの間で、いなくなったペトロのことで大騒ぎになった。ヘロデ王はペトロを探るように命じたが、見つからなかった。監視の番兵たちを取り調べたが、いなくなった経緯を知ることができなかった。ヘロデ王は、監視の務めを果たせなかった番兵たちを死刑にするように命じた。ヘロデ王の権力は絶大で、ペトロは解放されたが、その陰で番兵たちは処刑された訳である。

マタイ福音書は、ヘロデ大王が主イエスが誕生した時、自分以外の王の誕生を許さず、ベツレヘム一帯の2歳以下の男の子を全て殺害したと書いている。主イエスの誕生の陰で、幼児虐殺の悲劇を書いているが、これは、モーセが生まれた時、エジプトの王ファラオが生まれた男児をナイル川に投げ込んだ虐殺と重ね合わせた記述である。権力者が自分の意に添わない者を情け容赦なく殺害するのは世の常である。

ヘロデ王はペトロを探し出すことができず、諦めてエルサレムからカイサリアの別邸に帰って行った。ヤコブは殺害されたが、ペトロは生き延びることができた。パウロはフィリピ書 1 章 20 節で「生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストが公然とあがめられるようにと切に願い、希望しています」と、自分の生と死においてキリストを証しすることが望みであると書いている。